

大阪地区におけるB型肝炎母子感染防止事業の 効果に関する第二次追跡調査

田尻 仁 古座岩宏輔

要約：我々は前回昭和61～63年度に大阪地区において厚生省の所定の予防処置を終了した児の抗体獲得状況とHBVの感染率を調査した。その結果、厚生省方式を受けた乳児はフォローアップ方式を受けた乳児に比べてHBs抗体が低値である例が多く、かつHBV感染が多いことを明らかにした。以上の我々のデータを参考にして平成元年4月から大阪府でも3回のHBワクチン後の追跡検査が公費負担になった。その後のB型肝炎母子感染予防の成績を明らかにするために平成1年12月から第二次追跡調査を開始した。今回は平成2年10月までの集計結果を報告する。

見出し語： B型肝炎母子感染予防，追跡調査，追加HBワクチン，追跡検査

我々は前回大阪地区においては厚生省の所定の予防処置を終了した児（3回目のワクチンを生後5カ月頃に受けたもの）の満1歳時と1歳6カ月時の抗体獲得状況とHBVの感染率を調査した。その結果、厚生省方式を受けた乳児はフォローアップ方式を受けた乳児に比べてHBs抗体が低値である例が多く、かつHBV感染（HBs抗原陽性化及びHBc抗体再上昇）が多いことを明らかにした(1)。

以上の我々のデータをもとに平成元年4月に大阪府における同防止事業が一部改善された。改善点は3回目のHBワクチン接種1～2カ月後にHBs抗体の検査を公費負担で認めたことと、抗体が陰性

であれば追加ワクチンをすすめている（このワクチンの費用は公費負担ではない）という2点である。今回我々は大阪府でのこの改善されたB型肝炎防止事業の実施状況及び前回と同様に所定の予防処置を終了した児の抗体獲得状況とHBVの感染率を知る目的で第二次追跡調査を行っている。調査はHBs抗原、HBs抗体、HBc抗体、GOT、GPTの5項目について行っている。

対象行政区：大阪府，大阪市，東大阪市，堺市
調査期間：平成1年12月から3年間の予定

アンケート対象数：今回の追跡調査は平成1年12月から開始した。今回は1回目のHBワクチンが

大阪大学小児科学教室；Department of Pediatrics, Osaka University Medical School

終了した乳児数を大阪府医師会に集まった予防票の実数から計算した。平成2年10月までに1歳に達した206名の児の主治医にアンケートを送った。アンケートの詳細は昨年報告した(2)。

成績：206名のうちの34例について報告を得ている。

a) HBs 抗体の結果について(表1)

b) ワクチンの種類による差(表1, 2)

25例で血漿由来ワクチン (Mi社 16名, Ki社 2名, 不明 7名)

9例で酵母由来ワクチン (Ka社 5名, Me社 3名, Ta社 1名)

(表1)

	二次追跡調査			一次追跡調査 ^b
	A ^a	B ^a	計	(最終結果)
対象乳児数	17	8	25	141
HBs 抗体維持例	11 (64.7%)	7	18 (72.0%)	112 (79.4%)
HBs 抗体低値例	6 ^c (35.3%)	0	6 (24.0%)	25 ^d (17.7%)
HBs 抗原陽性例	0 (0%)	1	1 (4.0%)	4 (2.8%)

A: 血清ワクチン B: 酵母ワクチン

a: 生後6~10カ月の検査 b: 生後12カ月の検査

c: RIA 法で10.0未満 d: PHA 法で4倍以下あるいは RIA 法で10.0未満

(表2) HBs 抗体価 (RIA 法の cut off index)

	6~10カ月						1.0才				1.5才		
血清ワクチン	3.0	3.0	3.3	4.1	6.0	8.8	7.5	15.4	19.4	53.0	5.4	7.3	16.4
	11.1	13.4	16.3	20.0	30.5	32.9	<u>17.0</u>	<u>18.0</u>					
	41.4	44.8	45.0	47.1	50.0								
酵母ワクチン	13.3	14.0	16.0	18.7	23.0	8.3	16.0	44.5	52.0	15.6			
	25.0	53.0				76.0							
血清ワクチン	22.4±17.8 (3.0~50.0) n=17												
酵母ワクチン	23.3±13.8 (13.3~53.0) n=7												

(アンダーラインはワクチン追加例)

(強調文字は3回のワクチンに対する初期反応が10.0未満の例)

〈まとめと考案〉

1. 大阪府下で公費負担によるHBワクチン投与を受けた乳児についてその実施状況についてのアンケート調査を行った。
2. 平成1年12～2年10月のアンケート調査で34名について報告をえた。
3. 3回目のHBワクチン後の検査が生後6～10カ月に行われているものは34名中28名であった(28名中25名はRIA法でHBs抗体検査を受けていた)。他の2名はドロップアウト、他の4名は不明であった。
4. HBs抗原陽転例は対象34名中1名であった。この1例は3回の酵母HBワクチン接種にもかかわらず生後7カ月にHBs抗原陽性となり、GOT 108 U/l, GPT 229 U/lと上昇した。
5. 全体では生後6～10カ月にHBs抗体が10.0未満のものが25名中6名(24.0%)存在した。
6. 血清ワクチン接種例は34名中25名で、HBs抗体10.0以上が11名、HBs抗体10.0未満が6名であった。6名は不明であった。その他、RIA法以外の検査のものが2名あった。
7. 酵母ワクチン接種例は34名中9名でHBs抗体10.0以上が7名、HBs抗原陽転例が1名存在した。その他RIA法以外の検査のものが1名あった。
8. 34名中8名においてHBc抗体の6～10カ月と1.0～1.5才の2点での結果を得たが、HBc抗体再上昇例はなかった。
9. 血清ワクチンではHBs抗体産生が不良な例があり、一方、酵母ワクチンではlow responderはいなかった。

10. これまでの結果では第一次調査に比べて第二期のプロトコールによって予防効果が改善した傾向は認めていない。

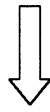
文 献

- 1) 野瀬幸, 田尻仁: 大阪地区におけるB型肝炎母子感染防止事業終了後の追跡調査. 昭和62年度厚生省心身障害研究「マスキリーニングに関する研究」報告, PP 181-183, 1988
- 2) 田尻仁, 古座岩宏輔: 大阪地区におけるB型肝炎母子感染防止事業終了後の追跡調査. 平成元年度厚生省心身障害研究「小児慢性疾患のトータルケアに関する研究」報告, PP 141-143, 1990



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:我々は前回昭和 61～63 年度に大阪地区において厚生省の所定の予防処置を終了した児の抗体獲得状況と HBV の感染率を調査した。その結果,厚生省方式を受けた乳児はフォローアップ方式を受けた乳児に比べて HBs 抗体が低値である例が多く,かつ HBV 感染が多いことを明らかにした。以上の我々のデータを参考にして平成元年 4 月から大阪府でも 3 回の HB ワクチン後の追跡検査が公費負担になった。その後の B 型肝炎母子感染予防の成績を明らかにするために平成 1 年 12 月から第二次追跡調査を開始した。今回は平成 2 年 10 月までの集計結果を報告する。